

努力賞

こんとあきを読んで

荒川区立第一日暮里小学校 三年

松本 夕渚

やなぎだ先生こんにちは、

わたしのこの本をえらんだりゆうは、わたしは、ゆう気づけられる本がすきで、主人公のあきに何があっても、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と、言ってゆう気づけられるのでこの本にしました。

こんは、きつねの人形で、あきのしんゆうです。

こんは、うでがほころびても、電車でしっぽがはさまれたり、犬に土でうめられたりしてもこんは、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と、言います。それをよんでこんは、いたいのにはげましているのがやさしいと思いました。

こんは、電車ではさまれて本当はいたいけど、あきが心ぱいするし、あきがいちばん大切だから「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と、言ってあきを気づかいました。そのすがたをみてやさしいと思いました。

こんは、いつも、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と言っていつも元気でした。あきはうまれたころからこんをだいじにしてているやさしい女の子です。あきだけではなくこわれたこんをなおしてくれるおばあちゃんもやさしいと思いました。わたしのおばあちゃんは、ふだんは、やさしいけど、おこるとこわいです。

ある日こんとあきでおばあちゃんの家に行くと
ちゅうあきがふあんになってしまいます。そんな
ときでもこんは、あきを、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と言って何度もはげましていました。

わたしは、こんのように、自分がどんなにつら
いときでも、

「だいじょうぶ、だいじょうぶ」

と、言うてはげませるようになりたいです。